

## 第1章 観光施設を活用した避難所による避難の促進について（新居浜市立川地区の事例）

### 1. 趣旨

新居浜市立川地区は昔から災害の多いところで、特に平成16年台風21号のときには土砂災害が発生した。このとき、地区住民は、事前に定めた遠方の指定避難所でなく、地元にある観光施設「マイントピア別子」に避難し、土砂災害による人的被害を受けずに済んだ。この施設は、平成16年時点では市指定の避難所とはなっていないが、地元の地区住民の意向も踏まえ、この災害以降、市指定の避難所となった。

近年においても、立川地区の住民は本施設を避難所として活用している他、マイントピア別子の避難対象世帯以外からも避難する住民が見られるようになった。この大きな理由としては、「避難環境」が大きく影響していると考えられる。

そこで、本稿では、「避難環境」の向上による避難促進への影響に関する事例として、本施設が避難所となった経緯や避難所としての効果・利点、今後の課題について整理する。

### 2. 新居浜市立川地区等の概要

#### （1）新居浜市の概要

新居浜市は、四国の瀬戸内海側のほぼ中央に位置し、人口123,500人、世帯数57,217世帯（平成26年9月末日現在）、面積234.32平方キロメートルの都市である。元禄4年（1691年）の別子銅山開坑によって繁栄し、沿岸地帯は工場群が带状に形成され四国屈指の臨海工業都市となっている。平成15年4月1日、別子銅山という文化歴史的背景を共有した別子山村と合併した。現在は、「一あかがねのまち、笑顔輝く一産業・環境共生都市」を目指す都市像とし、魅力あるまちづくりを目指している。

（出典：新居浜市HP）



図1 新居浜市位置図